

製品名: SUPT16H ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe87332**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	-
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50mM トリスグリシン（pH 7.4）、0.15M NaCl、40%グリセロール、0.01%アジ化ナトリウム、0.05%保護タンパク質を含む溶液で提供されます。受領日から12ヶ月間安定です。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:1000-1:5000
分子量	Calculated MW:120 kDa; Observed MW:120 kDa

抗原情報

遺伝子名	SUPT16H
別名	CDC68; SPT16; FACTP140; SPT16/CDC68
遺伝子 ID	11198
SwissProt ID	Q9Y5B9
免疫原	ヒト SUPT16H の合成ペプチド

背景

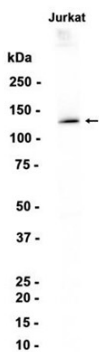
タンパク質コード遺伝子の転写は、一般的な転写因子と RNA ポリメラーゼ II のみを用いて、裸の DNA 上で再構成することができます。

る。しかし、この最小限のシステムではクロマチンにパッケージ化された DNA を転写することはできない。これは、補助因子が DNA へのアクセスを促進する可能性を示唆している。そのような因子の一つである FACT (クロマチン転写促進因子) は、ヒストン H2A/H2B と特異的に相互作用し、ヌクレオソームの分解と転写伸長を引き起こす。FACT は 80 kDa のサブユニットと 140 kDa のサブユニットから構成されており、この遺伝子は 140 kDa のサブユニットをコードしている。[RefSeq 提供、2009 年 2 月]

研究分野

-

画像データ



SUPT16H ウサギモノクローナル抗体を 1:1000 で使用した Jurkat 細胞抽出物のウェスタンブロット分析。